

ひびぎ



No. 23

ドラム缶工業会会報

ドラム缶等の平成10年度出荷実績と 平成11年度需要見通しについて

〔平成10年度出荷実績〕

経済全体の低迷を反映し大幅な減量

このたび、ドラム缶工業会の平成10年度出荷実績がまとまりましたので、若干のコメントを付記して皆様にお届けします。

まずこの年度の特徴は、日本経済全体の低迷を如実に反映して、近來にない低レベルの出荷実績に終わりました。則ち、全缶種合計で36,866千本と対前年比92.9%になりましたが、これの鋼材換算重量は更に低く91.5%に過ぎませんでした。

これを缶種別に展望してみますと、まず200ℓ缶は、上期47.2%、下期52.8%と特に上期の落ち込みが激しく、後半持ち直しましたが、10年度の実績は5年前の平成5年度の水準になっています。その具体的理由を特定することは難しく、石油、化学、両業界共に低操業であったと言う他はありません。その中で塗料向けについては前年比80%を割っており、自動車、建築等の低調さを物語っています。

次に中小型缶ですが、こちらは200ℓ缶以上に悪く、前年比87%となりました。これの年度別傾向をみますと200ℓ缶と異なり、平成2年度以降一途に低下し、実に平成2

〔表一〕 平成10年度缶種別・用途別出荷実績および平成11年度缶種別需要見通し

缶種	平成10年度実績								平成11年度見通し		
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別(本数)					トン数	本数 (千本)	前年度比 (%)	トン数
			石油	化学	塗料	食料品	その他				
200ℓ缶	11,380	91.4	1,866	8,407	601	135	371	269,353	11,300	100.0	267,649
ペール缶	24,079	93.8	12,313	10,328	738		700	38,643	23,157	97.0	37,159
中小型缶	1,042	87.1	36	969	2	1	34	6,930	1,019	97.2	6,802
亜鉛鉄板缶	337	100.2		310	6	1	20	3,776	318	98.8	3,778
ステンレス缶	28	128.2		28				508	30	105.4	481
合計	36,866	92.9	14,215	20,042	1,347	137	1,125	319,210	35,824	98.0	315,869
前年度比(%)	92.9	—	93.1	93.5	84.5	80.6	93.5	91.5	—	—	99.6
構成比(%)	—	—	38.5	54.4	3.7	0.4	3.0	100.0	—	—	—

〔表二〕

品種別出荷推移

本数(単位:千本)

缶種	平成3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度見通し
200ℓ缶	12,822	12,157	11,189	11,814	11,636	12,142	12,454	11,380	11,300
ペール缶	26,953	26,622	24,805	25,539	25,474	25,711	25,662	24,079	23,157
中小型缶	1,820	1,775	1,336	1,185	1,201	1,186	1,197	1,042	1,019
亜鉛鉄板缶	579	509	341	324	318	357	336	337	318
ステンレス缶	34	37	37	26	21	23	22	29	30
合計	42,208	41,100	37,708	38,888	38,650	39,419	39,671	36,867	35,824

年度比約50%の本数となっています。中小型缶から、他の缶種、他の容器への移行が憂慮されるところです。

最後にペール缶は、4年間継続した25,000千台を割り、前年比93.8%となりました。特に、構成比51%の石油が前年比93%と低調で、更に塗料、その他は前年比90%を下回りました。

**(平成11年度需要見通し)
最悪期は脱したか?**

本年度の見通しについては、景気がどの程度で底を打つと読むかに掛かってきます。まず200ℓ缶については、住宅産業分野の回復は期待されるものの、大宗を占める化学工業の操業度アップは上期は悲観的で、下期に期待を抱くこととしました。その結果、前年度比横這いの11,300千本と策定いたしました。

(策定時点2月のため、現時点5月で想定すると、横這いは11,380千本となります。)

ただ中小型缶については、依然として弱気感強く、前年比97%程度と想定いたしました。またペール缶については、主向先である石油、化学の回復が見込めず、前年比97%、23,157千本とバブル直前の昭和62年の水準に戻るものと思われまます。

以上を現時点(5月初旬)で総括しますと、関連業界の景況はほぼ底を打ったかと推察されますが、当工業会関連製品の出荷につきましては200ℓが辛うじて前年比横這い、中小型及びペールに関しては依然として若干の減少が想定されます。いつから右肩上がりのトレンドが描けるのか、関係者一同その時期の早いことを切望しています。

(注) 200ℓ缶については、平成10年度より非会員メーカーが1社増えましたので、工業会出荷実績統計に、該当数量が含まれないことを留意する必要があります。

ICDMフロリダ国際会議開催について

3年に1度開催されるICDM(International Confederation of Drum Manufacturers, 鋼製ドラム缶製造業者連合会)の国際会議は、本年9月、以下の通り、米国、フロリダのディズニーワールド内のホテルで開催される予定です。

1. 会期：9月26日(日)～30日(木)
2. 会場：ディズニーグランドフロリディアンホテル内会議場
(Disney's Grand Floridian Resort and Spa)
Lake Buena Vista, Florida (フロリダ)
3. 内容：会議セッションの具体的内容、発表者名、時間割等詳細は、まだ決まっていますが、発表の内容としては、ドラム缶火災実験結果報告、鉄鋼代表者からの発表、鉄の需要動向分析、ドラムのリユース/リサイクリング関係、需要家からの発表(石油、化学、特殊用途、食品関係)、ドラム缶の最新技術・市場動向、ドラム・ペール缶の将来用途、ドラム缶に係わる国際ビジネス動向、国際規格、更生缶業界の動向等注目に値する発表が予定されています。

なお日本からの発表は、以下の3件を予定しております。

- (1) ドラム缶の最新技術・市場動向
(発表者：近藤 徹 ドラム缶工業会常任理事)
- (2) 日本における更生缶業界の現状
(発表者：本野克彦 日本ドラム缶更生工業会会長)

- (3) 日本の鉄鋼業の動向
(発表者：佐藤真樹 ニッポン
スチールUSA社長)

また参加者として従来の鋼製ドラム及びペール缶メーカー、鉄鋼業界の代表、口金及びバンド製造業者、機械製造業者に加え、鋼製ドラムの顧客(需要家)にも参加を呼びかけておりますので、ご興味のある方はドラム缶工業会事務局(03-3669-5141)までご連絡下さい。



シリーズ

防火用水として利用され、文化財をまもるドラム缶
(写真提供：広瀬弘三氏)



ドラム缶こぼれ話

第四話 太平洋戦争とドラム缶

草創期のドラム缶需要は圧倒的に石油向けであった。当時、戦時体制に入りつつあったわが国の石油消費量はうなぎ上りに上昇し、ドラム缶需要も急速に拡大した。今回と次回の2回に分け、戦争という荒波に翻弄されたドラム缶の歴史を紐解くことにしよう。

* * *

1931年(昭和6年)の満州事変、1937年(昭和12年)の日華変、そして1941年(昭和16年)の太平洋戦争と、わが国は戦時体制を次第に強めていった。それに伴い、軍需品として重要な役割を果たすドラム缶の需要は急増し、勃興期にあったドラム缶業界は急速に発展していった。

1938年(昭和13年)4月、国家総動員法が公布され、ドラム缶業界も国策に沿った協力が要請された。そのため、同年6月に東部ドラム缶工業組合(12工場)、11月に西部ドラム缶工業組合(18工場)を結成し、翌1939年(昭和14年)2月にはドラム缶工業組合連合会に統合して、初代理事長に本野吉彦氏(日本ドラム缶製作所社長)が就任した。

こうした業界の一本化による原材料安定確保の努力にもかかわらず、絶対量の不足から各社とも企業活動を円滑に進めることは極めて困難な状態となっていた。特に新缶は軍の管理工場として増産に次ぐ増産を強いられ、私企業

としての利潤追及はもはや成り立たなくなってしまうのである。

1941年(昭和16年)8月、米国の対日石油輸出停止に伴い、その補填にわが国は南方占領地からの石油を充てた。このため石油業界およびドラム缶業界の民間人が数千名徴用され、現地で石油生産に従事した。しかし、日本への輸送はままならず、帰途千数百名が犠牲となる悲劇もあった。

戦時下の国内ドラム缶生産は完全に軍事行政下に置かれたが、肝心の鋼材が入手できず、軍からの割当てを辞退せざるを得ないケースが続出した。全国の生産量も1941年(昭和16年)の8万5千トンを超えて徐々に下降し、1944年(昭和19年)には2万1千トンまで落ち込んだ。また、口金の生産も間に合わず、当時の鉄鋼局は通達で「民需向けは口金なしで出荷すること」とした。民需向けは天板に大栓穴だけあけ、小栓はあけず、充填時に木栓を詰めて使用せざるを得なかった。

戦争という荒波はドラム缶を一気に高みに引き上げ、その終結とともにその他すべてのものと一緒に烏有に帰ってしまったのである。



図書紹介

「ドラム缶の基礎知識」

ドラム缶の更生業者の集まりである西日本ドラム缶協同組合(理事長・棚村公一幸和産業社長)の青年部会が、発足20周年の記念事業の一環として、「ドラム缶の基礎知識」を発行した。本文は62頁からなり、内容はドラム缶の歴史に始まり、Iドラム缶の部位名称、II更生ドラム、III新ドラム、IV法規制、V品質管理と公害対策など、多岐にわたって解説している。希望者には一部千円で配布している。問い合わせ先は、電話0593-53-8361(松井政典青年部会監事/石井産業)にご連絡下さい。



コ ラ ム

皺合わせ

ゴールデンウィークに、旧友達と紀州の高野山を訪ねた。

高野山は、御存知のとおり弘法大師の開いた真言宗の総本山であり、1200年の幽玄の歴史の世界に遊んだ。

さて、総本寺の金剛峯寺の見学が終わり大広間でお茶を頂いている間、

若いお坊さんが出てきて茶話を始めた。聞くとともに聞いていると、これが結構面白い。

「仏教では合掌して仏様をお願いをするが、右手は仏の手、左手は我々衆生の手と言われていました。心をこめて手を合わせることで、我々の願いが仏様に伝わります。」

「その時、両手の掌の皺(しわ)を出来るだけ合わせるようにして下さい。そうすれば、皆さん皺合わせ

(しあわせ)になれます。(一同爆笑)」

そう聞いて、両掌の皺を合わせてみるとこれが微妙に食い違っているようだ。我々の願いが仏様に時々届かないのは、そのせいであろうか?

明るい話題の少ない今日この頃である。皆さんも、思いきり両掌の皺を合わせてみられてはいかがでしょう。思わぬ幸運に巡り逢えるかも知れませんよ! (小野 正之 記)



川鉄コンテナ 株式会社

私たちの社名にもなっている「コンテナ」、それは「容器」を意味する英語です。ドラム缶、ペール缶、18リットル缶、ガスシリンダーなどのスチール容器からプラスチック容器まで、国内で唯一の産業用容器の総合メーカーとしてさまざまな製品をお届けしています。

当社は、ドラム缶部門、ガスシリンダー部門でISOを認証取得するなど品質向上に向けて、たゆまぬ努力を続けるとともに、事業領域の拡大にも積極的に取り組んでおり、浮桟橋や1トンコンテナ等中型容器の開発、日本のドラム缶メーカーで初めて中国上海に合併会社を設立するなど、未来へ大きく可能性を広げています。



サーモスキャリー

協和容器 株式会社

石油化学製品の多様化に伴い、高機能製品運搬用容器の必要性が求められて来ています。当社は今迄ステンレスドラム、ポリマイトドラム等種々対応品を市場に送り出してまいりました。今回は危険物運送も可能な“保冷、保温”のまま運搬が出来る“サーモスキャリー”ドラムを紹介致します。

鋼製80Lの外装ドラムと20Lポリマイトドラムを組み合わせ、断熱層として発泡樹脂を配した三重構造のドラムです。

内容物を充填した20Lドラムをそのまま収納して通常トラックで運送出来る、輸送コストの安価さの上に、保冷性能は市販クーラーボックスの約4倍有り、保温性能は市販魔法瓶の約2倍有り、と言った抜群の断熱性を持った優れものです。

《賛助会員》

エノモト工業(株) 三恵マツオ(株) 丹南工業(株) (株)大和鐵工所
三喜プレス工業(株) (株)城内製作所 東邦工板(株) (株)水上工作所

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 018-845-1105

 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-6344-9711

 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371

 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711


 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 086-465-3680

 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285

 ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-6466-4601

 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-6488-2468

 株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511

 東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6214


 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

 日鐵ドラム株式會社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2313

 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

 森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-1721

ひびき No.23 (平成11年5月22日発行)

発行人 ドラム缶工業会
事務局長 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。